

秋は悲しい季節？

月みればちぢに物こそ悲しけれわが身ひとつの秋にはあらねど 大江千里

訳：月を見ていると、あれこれと物悲しくなるなあ。私一人だけに秋がやってきたわけではないのだけれど。

「月」は秋の季語です。日本人は、月は秋が一番美しいと感じてきました。また「秋」になると、なんとなく「悲しい」と感じる人も多いと思います。本来は、秋は収穫の喜ばしい季節なのですが、このように「悲しい季節」と感じるようになったのは、平安時代の初め、中国からの影響によります。中国では、秋の感傷的な気持ちを表現する漢詩が多く作られました。この和歌も、中国の詩人、白楽天の「秋の夜は私一人のためだけに長い」と悲しみ嘆く詩が元になっています。その詩とはまったく逆に「私一人だけの秋ではない」と言っているところが大江千里のセンスですね。「千（ちぢ）」と「一」の数字の対比も技巧的です。

作者の大江千里は、在原業平・行平の甥で、父親は有名な漢学者でした。漢文の教養が豊かで、漢詩を取り入れた和歌を詠むのが得意でした。

小野田高等学校小倉百人一首かるた部顧問 青池のぞみ